

「第10回くまもと活性化フォーラム」結果概要

日時 : 令和7年5月22日(木) 14:30～17:40
場所 : 熊本地方合同庁舎 A棟 1階 共用会議室
テーマ : 「未来を切り拓く企業経営」

1. 主催挨拶 九州財務局長 倉林 健二



2. 講演 14:35～15:25

「未来につなぐ、活力ある九州の実現に向けて」

九州経済産業局 地域経済部長 楠木 真次 氏



3. 講演 15:30～17:10

「東京・下町・町工場の挑戦！」

株式会社浜野製作所 代表取締役CEO 浜野 慶一 氏



4. 意見交換 17:15～17:40



○フォーラム構成員からの主な質疑

Q. もらい火による工場の焼失後、どのようにリカバリーして今に至っているのか。

→（登壇者）

火事の後、会社が立ち直れた理由はきちんと話すと15分くらいかかるため時間が限られた本日は省略させていただいた。説明不足をお詫び申し上げる。

火事の後、最悪な事態からどのような戦略を持ってまた戦術を駆使してこの会社を立て直していくか考える次元ではなく、やらなきゃいけないことはすでに決まっていた。それは、資金調達を行うことであり金融機関に借りるか国や都の助成金を利用するかを選択肢しかなかった。しかし、従業員一人・会社の資産2万円の今にも潰れそうな会社に融資してくれる金融機関はないと諦め、国や都、区の予算を徹底的に調べることにした。その中で、東京都の助成金（金利0%、元金一年据置）を見つけこれしかないと思い申請した。事情を知った都の担当者からは「応援させてください」言われ、一緒に助成金をとりまとめてくれ、墨田区の助成金（金利2.2%、元金一年据置）についても申請し、1年間返済しなくてもよい資金をなんとか調達できた。

また、売上利益を確保するために新規顧客開拓を行った。学生時代の先輩（大手企業勤務）に相談し、4社紹介してもらい面談したが当社のような規模の小さな会社と取引したくなさそうだった。そこで、他の会社が嫌がる「短期納期一品物」を喜んで引き受けた。言われた納期の半分で全部仕上げると、「あなたを便利屋として使うのは申し訳ないので、ぜひ取引してください」と先方から頭を下げてもらい、一年後には月額売上1,000万円くらいもらえるような取引を4社としていただき、なんとか今に繋がった。

Q. 浜野製作所は、数あるスタートアップ企業とどのようにコミュニケーションをとり、フィーを獲得しているのか。

→（登壇者）

455社同時並行で動いているわけではなく、関わり方は会社のフェーズやステージで異なり、その時のフェーズに合わせたプログラムを行っている。

最初は私一人でやっていたが、これだけの規模になると一人ではできないため今は副社長2人と経営企画部5人に加え、設計開発部も交えてやっている。そうすると、設計や営業をやっている従業員の経営的なセンスも磨かれ、スタートアップだけでなく当社の従業員も育ち、10数名新規ビジネスができる従業員がいて会社も自然と変わる。営業や製造部門の従業員にも経営のことを考えてもらうことで、経営に対する目線・視点ができ、当社の事業構造が変わることができた。

今は、ベンチャーを育てながらその一部のビジネスを手伝ったり、大手企業に繋がったりして、フィーを獲得している。

(感想)

浜野会長の話を聞いて、企業が優位に立つ競争戦略がとても面白いと思った。「お客様に寄り添って圧倒的なスピードでモノ・コトを作る試行錯誤回数を増やし、新たな事業を加速させる」という、一品ものでも素早く開発するスピード感というのは、コアコンピタンスであり、さらにモノを作るところから、価値を作るところにシフトしていきお客様が事業開発しているところの開発過程を浜野製作所が代わりにやっているから、相見積もりをとらずに自分たちの価格で対価をもらえるということが、企業の競争戦略としてすごいと思うし圧倒的なコンピタンスを持っていないとできないとびっくりしている。こういう会社を目指すことが中小企業として大事だと思った。

(感想)

東京の中で工場をやっていくことの厳しさを逆手にとって、そこにある情報や人など東京が持っている資源を最大限活用され新しい事業展開をされたところに非常に魅力を感じた。

Q. 地域の中堅企業等の更なる成長支援における九州管内の取組として、九州の中堅クラスの企業の成長を加速化させるためにマッチング等行うとのことだが、日本全体や世界とのマッチングをどのように展開していくのか。

→ (登壇者)

中堅企業には、もう少し大きく成長してもらいたいという思いを込めて、「Mid KYUSYU 共創サポーターズ」を創設した。これは始まったばかりで来週第1回会合を開催する。まずは中堅企業等からのご相談に応じて各支援機関等への橋渡しを行っていきたい。サポーターズと同様の支援組織はいろいろな地域でこれから立ちあがっていくので、そのネットワークがちゃんと組めれば、今後日本全国規模で支援ができていくと思っている。

Q. 経営理念がとても素晴らしいと感じた。浜野会長自身どのような学びをされてきて、社員教育にどのように取り入れているのか教えてほしい。

→ (登壇者)

恥ずかしながらあまり勉強ができるタイプではないと思う。あるとき日刊工業新聞を見ていたら、経営理念を持っている中小企業と持っていない中小企業の利益率が明らかに違うという気になる見出しを見つけた。当時当社には経営理念がなかったので、なるほど作ればいいのかと簡単な考えで作り始めたが、作ったことがないためいろいろな企業の経営理念を見て「自分の中でこの会社として何をしたいのか」と考えて作った。

社員教育には、意識的な部分の教育と技術的な研修があり、技術的な研修は専門家にやってもうらのが一番であり、意識とか思いとか志の部分は経営者がちゃんと責任をもって

やるのが、経営者の大切な仕事だと思っている。当たり前なのが当たり前できない大人が増えているので、人に優しくする、失敗したら謝罪するなど当たり前のことしか教えていない。